

# 「Face-To-Faceの会」だより

## 大阪市大における医療連携プログラム

第九号 2011年 3月 発行:大阪市立大学病院「Face-to-Faceの会」 文責:荒川哲男(世話人) 連絡先: 06-6645-2711 庶務課 松村淳史

### こんなにこわい！？ 睡眠障害

冬にも関わらず、晴天の比較的暖かい2011年2月19日(土)に、第15回の『Face-To-Faceの会』が市大病院5階の講堂で開催され、約70名の先生方にご参加いただきました。

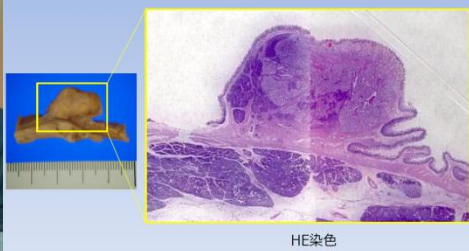


#### 症例から:十二指腸に粘膜下腫瘍、悪性？

消化器外科の天野良亮講師の司会で「症例に学ぶ」が始まりました。最初に消化器外科の前期研究医の倉田研人先生から、**十二指腸の異所性膵に内分泌腫瘍が合併した興味ある症例**が、初々しく提示されました。十二指腸下行脚にSMTとして発見され、リンパ節転移を伴っていたことから手術となり、内分泌腫瘍とわかった症例です。カルチノイドは現在では内分泌腫瘍(NET)に含められ、そのなかで最も悪性度の低いNET-G1に分類されます。本症例はNET-G1でしたが転移があった症例です。



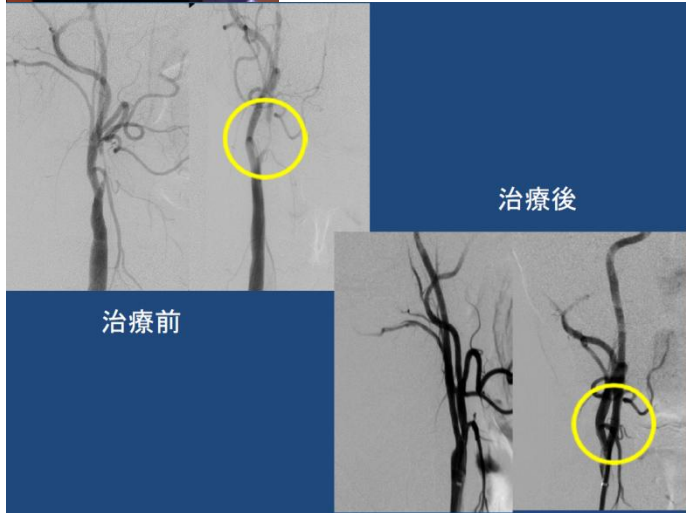
#### 病理組織



HE染色

次いで脳神経外科の後期研究医 平 真人先生から、**内頸動脈狭窄症に対して、内頸動脈内にステントを留置するという外科治療**が紹介されました。高度狭窄のある症例ではこのような治療が必要で、当院では90歳が施術した患者さんの最高齢だそうです。ステント留置

後の再狭窄は年間10%起こるため、抗血小板薬を2剤用いる(低用量アスピリン、プラビックス、プレタールから)。頸動脈は冠動脈と違って直径が太い(7mm)ので薬剤溶出ステントではなく通常のステントを使うそうです。



#### 睡眠障害は万病の元？

ミニレクチャーでは、内分泌・代謝・腎臓内科(第2内科)の新教授に昨年7月に就任された稲葉雅章教授から、睡眠障害の最近の概念と生活習慣病とのかかわりをご紹介いただきました。

睡眠は、脳が休んでいないREM睡眠と脳も寝ているnonREM睡眠の組み合わせで成り立っているそうです。夢をみるのはREM睡眠のときで、朝方は起きる準備としてREM睡眠になるので、朝方に夢をみるが多いのはそのためだそうです。

**7時間の睡眠がもっとも長生きできる**とのこと。しかし、アインシュタインは10時間以上、エジソン、ナポレオンは3時間がベストらしく、個人差があります。元気で仕事ができているならば、その睡眠がその人に合っているということです。睡眠不足は取り返せる、すなわち睡眠負債はできるのですが、明日徹夜になるので寝溜めをしておくというのは無理らしい。睡眠の貯蓄はできないそうです。そういえば睡眠バンクというのは見かけませんねー。



不眠症は入眠障害、中途覚醒、早朝覚醒、熟眠障害などがありますが、このような睡眠障害はQOLを損ねる以外に肥満、高血圧などに結びついたり、うつ病リスクも高めるので注意が必要です。

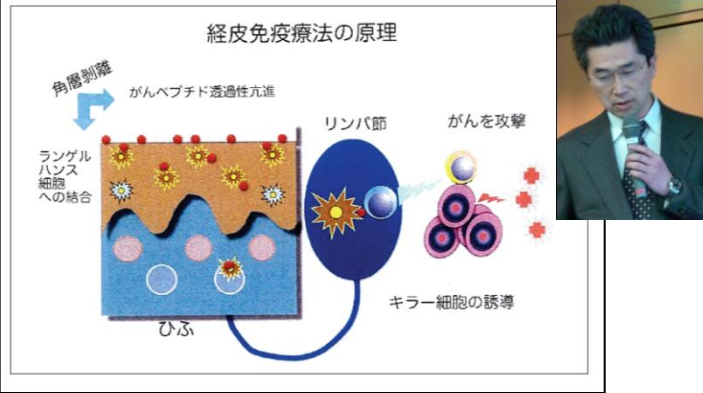
人体には中枢時計と末梢時計があり、2つの時計のバランスが大事だそうです。この2つの時計が狂うとサーカディアンリズムが乱れます。夜更かし、運動不足、暴飲暴食、夜勤などがこのリズムの乱れを引き起こします。サーカディアンリズムはメラトニンによって作りだされており、睡眠の3時間前から出てくるそうです。無理に起きていると、メラトニンの分泌パターンが不規則になってしまい、睡眠障害につながるのです。新しいタイプの治療薬として、メラトニン受容体刺激薬が有望で、欧米ではかなり使われているそうです。

本院では、呼吸器内科、耳鼻科、内分泌代謝内科が協力して睡眠障害センターを開設する予定です。一泊二日の入院で睡眠ポリグラフから睡眠パターンを診断できます。

情報提供コーナー：皮膚科から

ホククロのがん：悪性黒色腫（メラノーマ）に対する経皮ペプチド免疫療法を、浜松医大皮膚科との多施設臨床試験として開始しました。皮膚にがんペプチドを貼ることで、皮膚のランゲルハンス細胞を介して悪性黒色腫に対する免疫細胞を誘導し、悪性黒色腫を治療します。

悪性黒色腫の経皮ペプチド免疫療法



睡眠薬の選択(非BZ系睡眠薬の有用性)

- 「不眠のタイプでは、入眠困難が最も多いこと」
- 「中間型・長時間型では持ち越し効果が起こる」
- 「ほとんどの不眠症で、超短時間型・短時間型が第1選択される」

区分	一般名	主な商品名	タイプ	半減期(時間)	臨床用量 (mg/日)	副作用の選択性
超短時間型	濃石酸ゾルピデム	マイスリー®	非BZ	2.0	5~10	○
	トリアゾラム	ハルシオン®	BZ	2.9	0.125~0.5	×
	ゾピクロン	アモバン®	非BZ	4	7.5~10	○
	プロチゾラム	レンドルミン®	TZ	7	0.25	×
短時間型	ロルメタゼパム	エノバル® ロラメット®	BZ	10	1~2	×
	塩酸リルマゼホン	リスミー®	BZ	10.5	1~2	×
	フルニトラゼパム	サイレース® ロヒプノール®	BZ	7	0.5~2	×
中間型	ニメタゼパム	エリミン®	BZ	24	3~5	×
	エスタゾラム	ユーロジン®	BZ	24	1~4	×
	ニトラゼパム	ベンザリン® ネルボン®	BZ	27	5~10	×
長時間型	塩酸フルラゼパム	ダルメット® ロヒプノール®	BZ	24	10~30	×
	ハロキサゾラム	ソメリン®	BZ	42~123	5~10	×
	クアゼパム	ドラール®	BZ	40	20~30	○

アフター5でFace-to-Face

勉強会終了後の懇親会は、畑先生(住吉区医師会会長)の乾杯の音頭で始まりました。懇親会の場も今年度から、新設された宝塚ホテル直営の「パティオ」で行っています。おいしい料理を楽しみながら、おなじみになった面々や初対面の先生方も和気藹々のひとときを過ごしました。



医療連携勉強会のお知らせ  
第16回『Face-To-Faceの会』

- ・症例：2題 形成外科、消化器内科
- ・ミニレクチャー：  
脳神経外科 教授 大畑健治
- ・日時：平成23年6月18日(土) 午後3時~5時
- ・会場：大阪市立大学医学部附属病院5階 講堂